

安全衛生委員会



安全衛生委員会議題提案

毎日の業務ご苦労様です。

- 1. 10月28日に開催の安全衛生委員会における組合からの提案をさせていただきます。
- 1. 車庫棟の車止め側のタイヤ止めを繋いでいるワイヤー先端部分が多量に腐食している部分があるので処理して欲しい。
- 2. 車の健康診断については3日間という短い期間のため明書でしか受診できない人がいる、また明書で受診すると再検査項目が増える可能性があるため体調が万全と思われる出番の受診を認めて欲しい。
- 3. 車庫棟の車止めを外れて壁、柱等に接触する車が見受けられるので車止めを増設して欲しい。
- 4. 営業車のブレーキ異常を発生する車が多くなってきているように感じているので精神的にも良くないので改良して欲しい。

以上

安全性と衛生面を 労使で協議する

第1回委員会

第1回安全衛生委員会は10月18日に会社2階会議室で行われました。

当日は労働者代表の労働組合から新メンバー（高橋委員長、鶴田・鈴木副委員長、鷲尾書記長、藤原教育宣伝部長）が参加しまし

た。当日は都合により産業医である佐藤病院の佐藤院長が欠席となりました。

議題は組合から提出し、車庫棟の施設、健康診断の受診の問題、営業車のブレーキ音の問題を書面で提出しました。

健康診断では、明番時の睡眠不足で受診するのが適

切であるか、体調の整った出番で受けるのがいいの

第2回委員会

11月26日、第2回委員会が行われました。

今回は多忙で佐藤先生が欠席となりました。このことから、佐藤先生だけでなく、佐藤病院の4名の先生を産業医として契約すると会社は報告してきまし

増える最賃対象者 営収増やす提案必要

12月15日、日交労組は会社との交渉で、就業規則の問題（定時制乗務員や交番変更）を話し合いで解決を図ること、昨年同様の年末年始の取扱で08秋闘を妥結しました。今回の交渉では会社か

らの話で目立った内容は人件費の上昇でした。毎回聞かれる燃料費の高騰は一切なく、代わりに出てきた問題は最低賃金の補償額が増大していることでした。営収が下がれば、最低

賃金の対象者が増える。最賃額が引きあがれば対象者が増える。2つの要因により対象者が増えることは当たり前のことである。企業努力だけで営業収入を増やせとは言いませんが、一方的に労働者に責任を押し付けるやり方も成功しません。

労働組合は今後、提案型の提案をすすめて、営収が増えるよう努めます。そのほかに、「風邪が流行している」ことから、石鹸とうがい薬の設置を会社に申し入れました。

安全衛生委員会とは

昭和47年6月

労働安全衛生法が制定され、社員500名以上の企業は3名以上の安全衛生管理者と産業医1名、労働者5名で構成する委員会を設け、定期的に委員会を開催し、職場の安全及び衛生上必要な措置を講じ、社員の健康と生命の保持に努めなければならないと明記されています。日交では、08春闘の交渉で立ち上げになりました。



組合事務所お休みについて

12月31日から1月3日の4日間

組合業務をお休みさせていただきます。

急用の際は、手帳にある緊急連絡先にある携帯電話に連絡してください。

おいしい芋煮で仲間と交流 青空の下で疲れも忘れる

10月11日・12日の両日、日交労組文化部主催の芋煮会が、若林中河原河川敷（広瀬川千代大橋下）で開催され、組合員と家族総勢112名の参加で盛大に行われました。

高橋委員長は「今日は日ごろの疲れを忘れて皆さん盛り上がりってください」と挨拶しました。

1日目は朝からぐずぐずついた天気でしたが、多くの組合員とその家族が集まりました。芋煮は2課の浅利隆一朗料理長が担当し、要領よく短時間で完成しました。腕前はプロ級です。芋煮を食べ始めると多くの組合員から「うまい」の聲が上がりました。おいしい芋煮にした包みを打ちながらみんなで交流を深めました。

2日目は、朝から絶好の芋煮会日和で、前日仕事で参加できなかった4課の萱場清焼き方担当料理長も加わり裏方もパワーアップ。あまりの張り切りぶりにホ

ルモンを黒こげにする場面も、それでも大反響で初日より多くの参加者で会場は盛り上がりました。

最後に芋煮会を主催した石川文化部長は「皆さんの協力のもと、けが人を出すこともなく、仲間と交流を深めることが出来ました。来年もみんなが楽しめる芋煮会など企画を立案していきたい」と挨拶し、芋煮会は大成功で終わりました。



芋煮を食べながら盛り上がる組合員

不況時に人が集まるタクシー産業 今集まると町に車も増える

アメリカ発の大恐慌、100年に一度クラスの不況のしわ寄せは日本にも確実に到来しています。

来年度新卒採用者の内定取り消しや派遣社員の雇い止め、大企業が率先してリストラを敢行しているのが今の現状です。

各県別の失業率をみると自動車産業の中心地である愛知県や広島県などが目立ちます。

大量の労働者は失業するなか、京都のエムケイは1万人の乗務員を雇い入れると発表しました。

ハイタク労働者は不況の時こそ集まりやすいとの経営側の考えはわかります。

規制緩和の影響で大量増車された地方都市では、休車している営業車も動き出し、タクシー1台あたりの營收低下を招くものです。

仙台圏は現在、緊急調整措置発動中で、増車はできません。増車出来なからと安心してはいられません。稼働率の低い会社はいくらでもあり、

大量にリストラされた労働者を仙台で働かせようと考える経営者が出てきたらとても危険で更なる状態悪化が懸念されるどころです。

このような動きを事前に察知し、前にも察知し歯止めをかける必要があります。

しかし、このような動きを事前に察知し、運動をおこなうような機能する産別結集組織が宮城県に存在しないのがとても残念であります。

相澤裁判のお知らせ

次回公判は1月13日（火）11時30分から行われます。

今回が最後かもしれませんので、傍聴希望者を数名募集します。

申込者多数の場合抽選とさせていただきますが、それでも構わないという方は組合事務所までご連絡ください。

意見・要望を受け付けます。【記入したら切り取って、組合事務所目安箱へ】

春闘要求書作成時に活用させていただきます。悪用はしませんので氏名などの記入もお願いします。

課 名前